

学校教育目標	「みんなかがやけ 洋三の子」～ 認め合い 高め合い すすんで未来をつくる子を育てます ～ 興味・関心をもって、課題解決に主体的に取り組む子を育てます。(知) 自分と周りの人を大切にし、思いやりの心をもって行動する子を育てます。(徳) 健康や安全に関心を持ち、自分や人の命を大切にする子を育てます。(体) 夢や希望をもつとともに、まちや地域の一員として行動する子を育てます。(公) 社会への視野を広げ、よさや違いを認め、ともに生きる子を育てます。(開)				
	学校概要	創立 47 周年	学校長 金澤 智美	副校長 秋元 淳一	2 学期制
児童生徒数: 299 人		主な関係校: 洋光台第一中学校 洋光台第一小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力	洋光台第三小学校 洋光台第一小学校 洋光台第一中学校	①「洋光台のまち」を大切にする子ども②自尊心を高めていく子ども ③楽しく学習に取り組む子ども ①学校づくり懇話会をブロック合同で行い、互いの課題や重点研究の情報を共有し、地域で関わり合いながら、地域に貢献する子どもを育成する。②ブロック合同で人権研修を行い、他人の気持ちを考えて行動し自尊心を高めていく子どもを育成する。③9年間を見通したカリキュラムの作成や小中交換授業を行い、小中一貫教育カリキュラムの授業を通し、主体的に学習に取り組む子どもを育成する。

中期取組目標	○様々な教育活動を通して、自他を大切にし、互いを認め合い、高め合おうとする心情や態度を育てます。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活を送れるようにします。 ・自分の心や体の健康に関心を持ち、よりよい生活習慣を心がけ、進んで身体を動かせるようにします。 ・教育活動の充実と、安心・安全な学校生活のため、保護者や地域・中学校ブロック間の連携を強め、信頼される学校づくりを目指します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく 知	知識・技能を身に付け、それらを活用して思考・判断・表現をすることに、進んで、そして粘り強く、自らの学習を調整しながら学習に取り組むことができるように、重点研究を柱に、児童一人ひとりの学力向上と対話による学び合いの姿を目指す。
豊かな心	「明るく」「いつも」「先に」挨拶をすることで、気持ちを「伝える」ことができるよう、年間を通し工夫して挨拶運動に取り組む。異学年交流を大切にし、協力し合うことの楽しさや大切さを学ぶようにする。保護者や地域の方とふれあい、「まち」のよさや「人」とのつながりに気付くことができるようにする。
健やかな体	長縄集会を設け、その集会に向けて学級ごとに記録を目指し、長縄跳びのスキルアップを図る。個々が運動により親しむことができるように、カードを工夫するなどして短縄にも取り組む。よりよい生活習慣が身に付くよう、学校保健委員会の活動を充実させる。全校児童が運動に親しんでいけるよう、児童委員会の活動を充実させる。校内重点研究に体育科の「ボール運動」を設定し、児童の体力や学びに向かう姿勢の向上、教師の授業スキルアップを行えるようにする。
児童指導	児童の「安全・安心な学校生活」を目指して、学校のきまりに基づいた指導を行う。「洋三スタンダード」を児童・保護者に周知し、全職員で共通して指導にあたる。職員会議をはじめ各種会議等で、児童についての情報を共有し、組織的に対応する。
特別支援教育	合理的配慮・基礎的環境整備に対する理解とともに、どの子どもも安心して学習に取り組める環境づくりを進める。一人ひとりの支援ニーズに合わせて、少人数指導やTT・ATの活用、サポート学習等を行う。ユニバーサルデザインに基づく教室環境・授業づくりに取り組む。
地域連携	新学校教育目標の周知、学校だよりやホームページの充実を図り、情報の提供・更新に努める。PTA行事や地区懇談会、スクールゾーン対策協議会、学校づくり懇話会、地域防災訓練等における意義と役割を共有し、相互の信頼関係を築いていく。
いじめへの対応	「いじめを絶対に許さない」という意識のもと、学校内の児童支援体制を確立し、児童理解に努め、全職員で情報を共有する。いじめの未然防止に努め、保護者や外部機関とのつながりを大切にしながら、協働して児童の健全育成にあたる。いじめが疑われる時には、迅速で丁寧な対応を組織的に行う。
人材育成・組織運営 (働き方改革)	ブロック・学年研をはじめとして、職員間の伝達や学びを日常的に深めるとともに、メンター会や校内研修の計画的な実施により、学校に求められる職員の力量の向上を目指す。組織編制を改定し、各種会議の効率化と職員間の情報共有、組織的取組を推進する。